

# 「高輪築堤」について

○高輪築堤とは

高輪築堤は、明治5(1872)年に我が国初の鉄道が開業した際に、海上に線路を敷設するために築かれた鉄道構造物です。明治政府は、明治2(1869)年に、首都東京と開港場であった横浜を結ぶ約29kmの鉄道建設を決定しました。しかし、高輪周辺の土地は国防上必要であるとの理由で兵部省が鉄道当局への引き渡しを拒んだため、本芝から高輪海岸を経て品川停車場に至るまでの約2.7kmの区間は海上に築堤を建造し、その築堤の上に列車を走らせることとしました。

工事はイギリス人技師エドモンド・モレルの指導のもとで民部省鉄道掛のちに工部省鉄道寮が担当し、石垣の石材には台場や高輪海岸の石垣等が使用されています。一度埋め立てた土砂が波に流されて築堤が崩壊するなど難工事となり、完成したのは正式開業直前の明治5(1872)年9月のことでした。

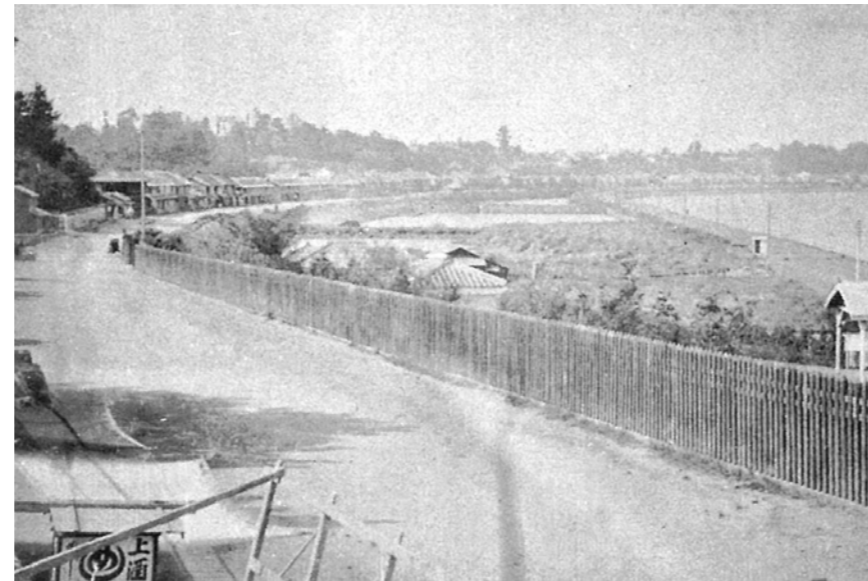
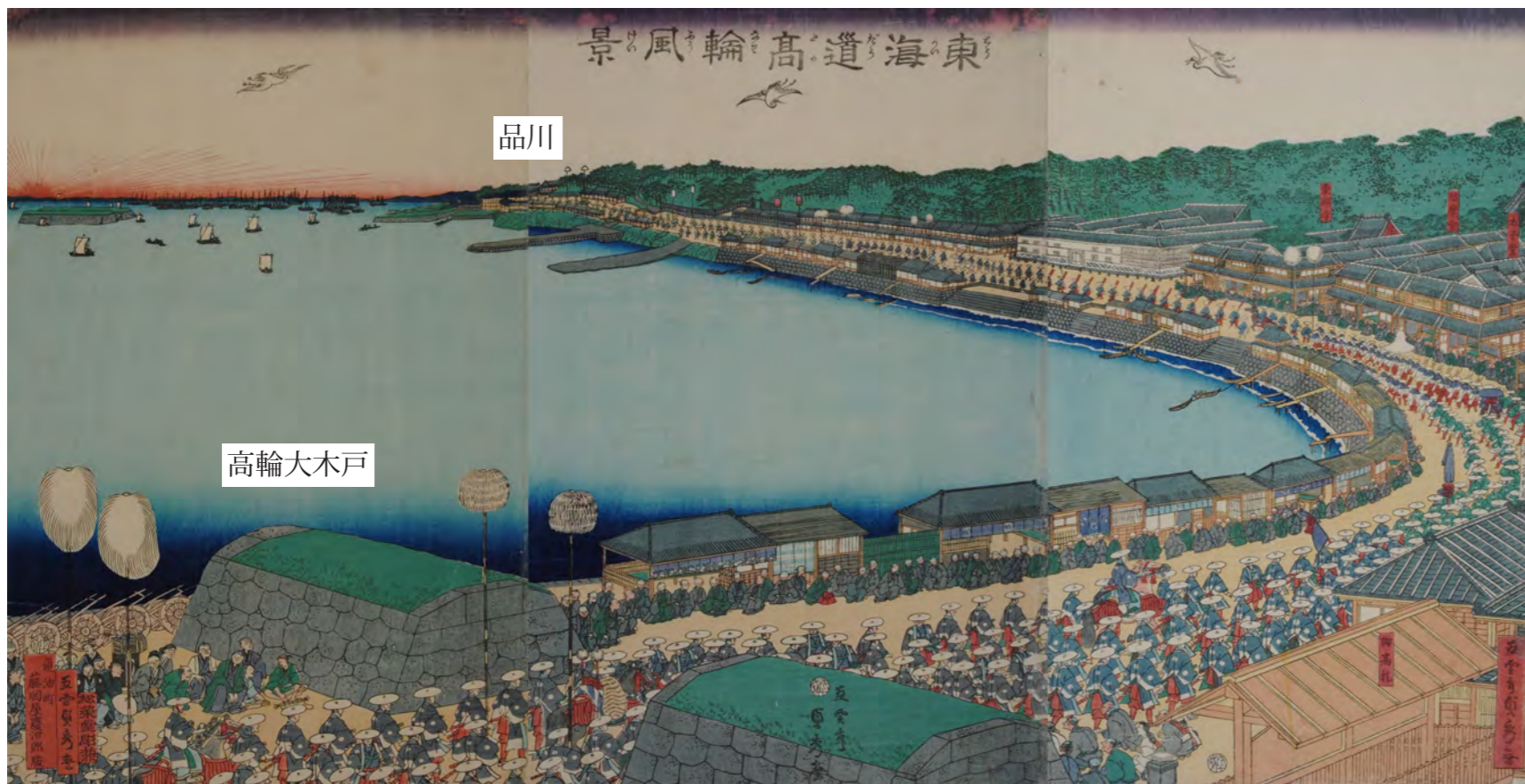


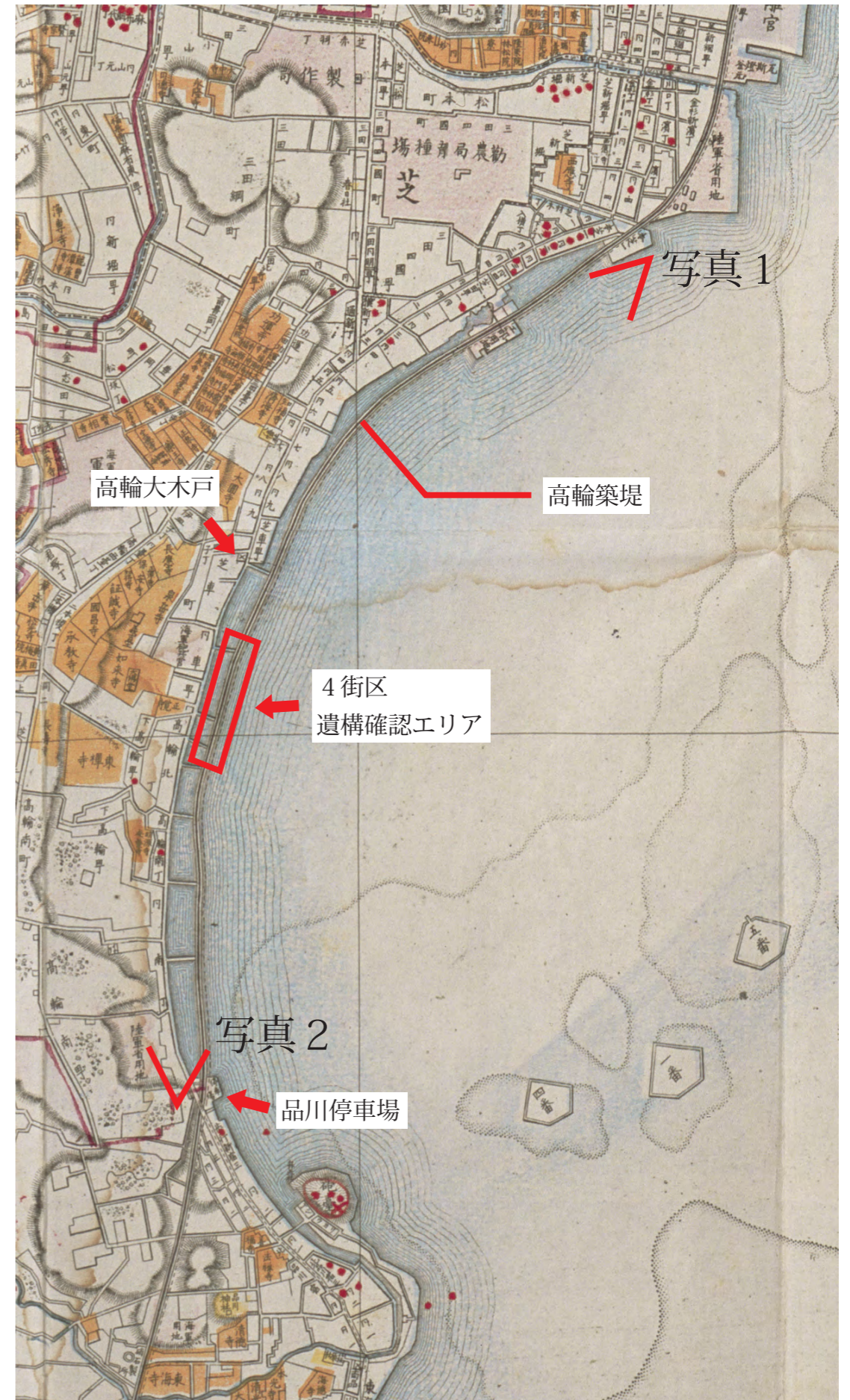
写真1 明治40年頃の高輪築堤(『芝区誌』より)

写真2 右手に高輪築堤。明治20年頃(『写された港区』より)



江戸時代末の高輪海岸。大木戸から品川方面を望む。(東都高輪風景 五雲亭貞秀 文久3(1863)年3月)

2021年4月4日(港区教育委員会作成)  
 図版・写真: 特記のないものは港区立郷土歴史館・  
 港区教育委員会所蔵



明治11年の地図(実測東京全図 明治11(1878)年 内務省地理局)



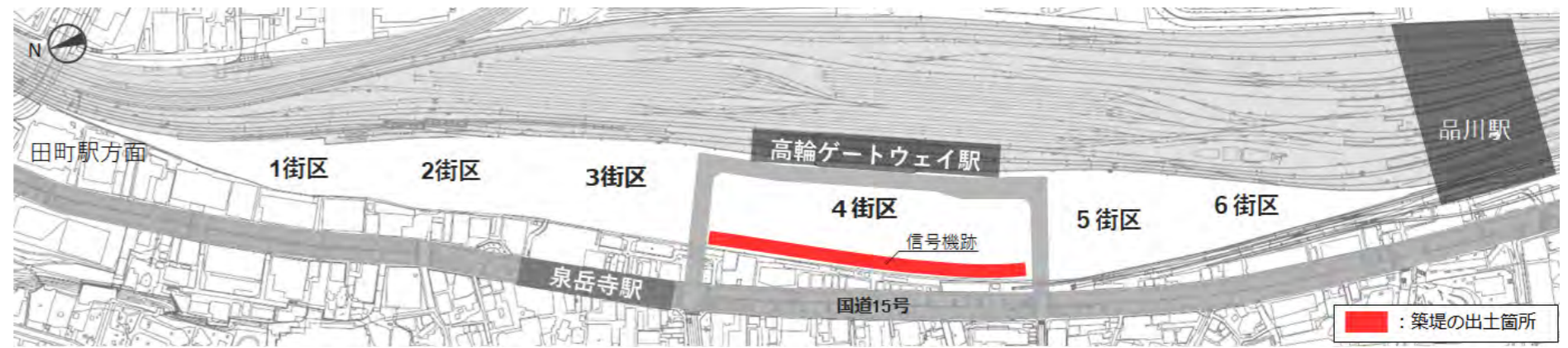
# 「高輪築堤」 高輪ゲートウェイ駅前の出土状況について

2021年4月4日（港区教育委員会作成）  
 図版・写真：特記のないものは港区立郷土歴史館・  
 港区教育委員会所蔵

## ○4街区の遺構について

高輪ゲートウェイ駅前にあたる4街区では、鉄道開業時の信号機跡と推定される遺構を含む約380mの高輪築堤跡の遺構が検出されました。信号機跡は、明治5年（1872）の鉄道開業時のわが国最初の信号機の遺構と考えられます。

また、この街区で検出された高輪築堤跡の遺構の南部（品川方面）はゆるやかな弧を描くように造られ、信号機跡付近を境に北部（田町方面）は直線的に構築されています。これは高輪海岸の形を今に残すとともに、海上築堤の鉄道らしい景観です。



JR 東日本提供図面



高輪ゲートウェイ駅上空から撮影。 JR 東日本提供航空写真



遺構北部より、品川方面を望む。左手に高輪ゲートウェイ駅。直線状に伸びている状況が確認できる。



遺構南部より、田町方面を望む。右手に高輪ゲートウェイ駅。円弧上に築堤が湾曲している様子が確認できる。



遺構北部から南部を望む。遺構北部と南部の境、湾曲し始める部分に信号機跡（赤い矢印部分）が見える。



信号機跡と思われる張り出し部分。



張り出しの内側には、十字に設置された木製の基礎が確認できる。